

# 講演会の御案内

## 不斉自己触媒反応とホモキラリティーの起源

東京理科大学理学部応用化学科・教授

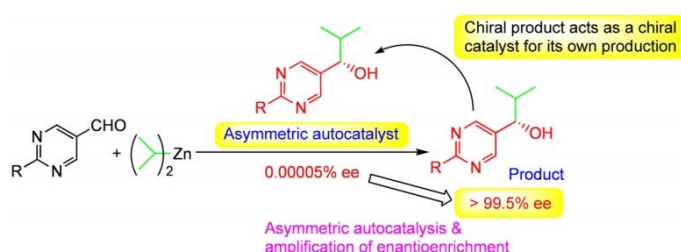
碓合 (そあい) 憲三

日時：10月31日(木) 16:40~18:00

場所：理学部 B303 講義室

生物を構成する化合物は、L-アミノ酸やD-糖類に見られるように鏡像異性体の一方が圧倒的に多く存在し、生命のホモキラリティーと呼ばれている。最初に如何なる要因で不斉が生じ、増幅してホモキラリティーに至ったのかという化学プロセスの解明は、生命の起源にも関わる課題であり、長年多くの関心を集めてきた。我々はキラルな生成物が

不斉自己触媒として自己を合成する不斉自己触媒反応を見出した。本反応では、極微小な不斉が >99.5% ee に



増幅する。円偏光，キラル無機結晶，アキラル有機化合物が形成するキラル結晶，自発的絶対不斉合成等を不斉の起源とする不斉自己触媒反応を用いるホモキラリティーの起源解明へのアプローチを述べる。

主催：大学院自然科学研究科数理物質科学専攻化学コース

共催：グリーンケミストリー連携教育研究センター

(世話人) 理学部化学科 田山 英治 (内線:7741)